


事業報告書

【知っておくとイイ!認知症の基礎知識～認知症サポーター養成講座～】

日時	平成 29 年 7 月 29 日 (土) 14:00～16:00
目的	認知症の基礎知識、認知症の方と関わる際のコミュニケーション技法などを現場の介護者の視点から学び、啓発することを目的とする。
対象	関心がある方
講師	神谷 進 氏 (沖縄県認知症介護指導者)
会場	沖縄県男女共同参画センターていりる 3 階 研修室 1・2
定員	40 名 [申込者数 49 名]
参加者数	40 名 (男性 13 名 ・ 女性 27 名)
講演内容 (概要)	<p>認知症という病気</p> <p>認知症というのは「脳の不具合」の病気であり、「記憶・思考・見当識・概念・理解・計算・学習・言語・判断」の高次脳機能障害からなる症候群だと話した。65 歳以上で約 10%が、85 歳以上で約 30%の人が認知症になると、予備軍を含めると 4 人に 1 人が認知症という年を重ねると誰にでもなる身近な病気であることとして、身近な病気だからこと「予防が大切」と方言を交えながら伝えた。</p> <p>認知症と向き合う</p> <p>認知症と診断されたから「おしまい」ではなく、症状が出て、「学習」する力も残っているという事、認知症の早期に見られる言動と、変化として出てくる症状があり、「おかしいな」と思ったら医療機関に相談するようにと促した。(何度も繰り返し言ったり聞いたりする、お金の管理ができなくなる、薬の飲み忘れが増えた等) その症状の中で、当事者の方が何度もおなじ事を「言う」事に対して、本人にとって一番大事な事柄であるという点を理解していると解決につながるポイントにもなるとアドバイスした。</p> <p>認知症の種類 (アルツハイマー型 5 割、レビー小体病前頭・側頭型 2～3 割、脳梗塞、脳出血、脳動脈硬化 3 割) と多くの病態や認知症を引き起こす病気について説明した</p> <p>認知症が進むと言葉がうまく出なくなり、思いや要望を声や表情で伝えようとする事や、間違ったコミュニケーション方法で認知症が悪化すると、例を挙げ話した。最後に認知症の方へ寄り添う為に、「思い」に寄り添う事や過去の生活習慣からヒントを見つけたり、できることを続けられる支援をめざすことや、温かい目で見守ることから始めるとイイと伝えた。</p>
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつでも勉強して、お互いのために知識と気持ちに余裕を持って親の介護と向き合っていきたいです。ありがとうございました。 ・とても参考になりました。有り難うございました。嫌なイメージがありましたが、無理せず自分と相手のペースに合わせて行うことを知りました。 ・分かりやすい講話ありがとうございました。方言交えてリアルで良かった。 <p style="text-align: right;">(一部抜粋)</p>
写真	
主催等	沖縄県・(公財)おきなわ女性財団